

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	医療法人 ナカノ会	事業所名	ナカノ看護小規模多機能型居宅介護事業所
所在地	(〒 890 - 0008) 鹿児島県鹿児島市伊敷3丁目14番8号		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況に応じて医療・看護・介護の連携を図り迅速に対応することで利用者・家族の安心感に繋がっています。 ・医療ニーズの高い利用者も介護と看護の両面からサポートし24時間、365日切れ目のない体制で安心して生活が送れるよう取り組んでいます。 ・家族・医療、介護スタッフ間で利用者の情報共有を図るためにタイムライン形式による情報共有システム（MCS）を活用しています。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦2020年 1月 20日	従業者等自己評価 実施人数	(32) 人	※管理者を含む
----------------	----------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2020 年 3 月 16 日	出席人数 (合計)	() 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (6人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 ()人 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (2人) <input type="checkbox"/> 利用者 (0人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (1人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (人) <input type="checkbox"/> その他 (3人)			
	今期は、感染症対策により予定の会議開催せず、各委員関係者より事業所評価表等の資料を配布してコメントをいただいた。			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	事業所理念に基づき事業目的を理解し様々な状況に対応できる能力を身につける。そのためには法人内外研修参加や事例検討会を適宜行い職員全員の専門的技術・知識の向上につなげる	スタッフミーティング2回実施/月、担当者会議、新規利用者情報などあらゆる手段を活用し把握し連携強化に努めた。定期的な法人運営会議の報告も同様になされ法人内事業運営への意識の統一が図かる努力ができた。	明確な事業理念があり、理念医に基づいた人材育成体制があることで職員へのスキルアップ向上につながって、利用者や家族の安心になっている。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	主治医、看護師、PTより健康管理や機能訓練に関する情報収集を密に行う。状況変化に応じて本人、家族の意向確認・関係各所との連携を図り全職員が情報共有し迅速な対応ができるよう取り組む	病状進行（がんの末期療養者など）の場合介護状況に応じたサービス内容の変更を行った。また一時的なADL低下となった場合などにも積極的なリハビリの介入なども意向確認のもと計画実施できた。 ・緊急時対応に必要な知識技術など法人内職員による勉強会が速やかに実施できるなど人材活用もできている。	各職種間で情報共有化されており、本人・家族の希望や意向把握に努めている。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	重度化や看取り時には主治医、看護師、関係各所と密に連携を図り利用者・家族を支えていく	・訪問看護、医師との連携を密にとり医療ニーズの高い利用者の手技・ケアも事前に学習する機会を得ている。MCSなども気軽に活用できるシステムで家族への状態報告などにも役立てることができた。	本人・家族の不安等を軽減させるため多職種間での連携が円滑にできている。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	・町内会、老人クラブ、近隣の小中学校の行事などの参加や医療機関、地域包括支援センターなどへの広報・啓発活動の強化	地域に出かけて（ふれあい会食）法人の紹介や毎月1回の地域清掃、子ども110番の旗を掲げる、地域住民参加の防災訓練、運営推進会議を通して法人の広	地域への啓蒙活動をされており、今後の地域のニーズ把握をした上で貴事業所の特性を生かした地域活動へ取り組んでほしい。

		<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を通して地域の方々より地域情勢の情報収集 	<p>報・啓発活動、勉強会の講師など実施。</p>	<p>ふれあい会食参加等により健康体操や講話などサービス内容も地域住民に浸透してきた。また移動販売車の場所の提供なども協力できた。</p>
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療ニーズの高い利用者や看取り支援において本人、家族の安心感に繋げられるよう関係各所との連携を密に図り又、職員の専門的技術・知識を高め看多機の機能の充実を図る ・本人、家族の意向を十分に反映させたプランを策定し、職員全員が目標に向けて取り組む必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・がん末期の利用者以外にも経管栄養法、在宅中心静脈栄養法、在宅酸素療法など必要な医療ニーズの高い方々の受入れも積極的に行うことができた。その際、導入時のみならず変化時には医師を交えての説明と意向の確認を行い、その人らしい療養生活を全職員で支援できることにつながった。 ・地域包括ケアシステムの基、住み慣れた地域での療養生活を継続しながらも本年度において11名の看取りをさせていただいた。 	<p>本人のQOLを尊重し本人や家族の在宅療養を支援し看取り対応も充実されているので。安心して相談できる事業所である。</p>	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	明確な事業理念があり、理念に基づいた人材育成体制があることで職員へのスキルアップ向上につながって、利用者や家族の安心になっている。	事業所理念に基づき事業目的を理解し様々な状況に対応できる能力を身につけたうえで、法人内外研修参加や事例検討会を適宜行い職員全員の専門的技術・知識の向上につなげられるよう継続的に取り組む。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	各職種間で情報共有化されており、本人・家族の希望や意向把握に努めている。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	本人・家族の不安等を軽減させるため多職種間での連携が円滑にできている
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	地域への啓蒙活動をされており、今後の地域のニーズ把握をした上で貴事業所の特性を生かした地域活動へ取り組んでほしい。ふれあい会食参加等により健康体操や講話などサービス内容も地域住民に浸透してきた。また移動販売車の場所の提供なども協力できた。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	本人の QOL を尊重し本人や家族の在宅療養を支援し看取り対応も充実されているので。安心して相談できる事業所である。	<ul style="list-style-type: none"> ・医療ニーズの高い利用者や看取り支援において本人、家族の安心感に繋げられるよう関係各所との連携を密に図り又、職員の専門的技術・知識を高め看多機の機能の充実を今後も図っていく。 ・本人、家族の意向を十分に反映させたプランを策定し、職員全員が目標に向けて取り組めるよう今後も努力する。

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	●				理念が明確化されており、よくできている。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している						て、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・自己目標を掲げ、目標管理シートを活用し、必要時面談行いながら各自スキルアップ行っている					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	●				定期的な法人内研修機会が確保され OJT も充実しているのでよくできている	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・研修委員会を中心に年間計画を立て、計画に沿って毎月法人内研修を行っている。参加できない職員については、研修内容伝達報告行い、共有をはかっている。院外研修に対してもサポートがある。					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		●				✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・毎月のミーティングに各職種参加にて専門別に情報提供し意見出し合い情報共有できているが、個別のカンファレンスについては不十分な部分がある					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		●				✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ご利用者様、ご家族、外部出席者からの具体的な提案は実行した。 ・後利用者様居室内転倒防止の環境整備の提案後スタッフミーティングにより居室内整備行った					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		●				✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・職員の就業状況や意向の確認行い、勤務日程の調整行っているが、欠勤に対する交代要員がいない等人材不足の現状がある。配慮はなされているが環境整備が追いついていない。					
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要		●				✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	[具体的な状況・取組内容] ・申し送りにて利用者様個々の様子や特変等情報共有をし、主治医、看護師、介護士にて連携を図りながら利用者様の健康状態を把握し、異常の早期発見に努め、迅速に対応ができています。					2つの視点から、充足度を評価します
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		●				✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
		[具体的な状況・取組内容] ・夜間セキュリティ、監視カメラにて安全確保を行い、毎朝の安全運転の啓発、介護士、看護師に於いては、インシデント・アクシデント報告書を基に、予防対策を行っているが、転倒、滑落における個別の予防策が不十分である。交通安全対策の一つに事業所用車にはドライブレコーダーの設置がなされ、また、敷地からの車道は減速(10km)で走行し対策を講じている。個人情報内容に関しては利用契約時に説明と同意を得ている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセ		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	スメントが行われている	ため、生活全てを見回している。 ・地域在宅者に家族情報など一部不明な部分 はあり					規模多機能型居宅介護においては、家族等を含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		リハビリも積極的に実施できている。					した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		●				<p>「早期の把握・スタッフの知識不足、感染対策等準備不足がある。 ・スタッフの知識不足、感染対策等準備不足がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	<p>利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している</p>	<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護のサービス提供も含め全体的な利用のバランスなど生活の全てを支えている。(サ高住入居者様) ・地域在宅者は家族との連携で訪問サービスを計画できている。 <p>独居者においては、利用内容を柔軟に変更している(通い中止の場合訪問サービス)</p>					<p>把握」という視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です</p>
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	<p>○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている</p>		●				<p>✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します</p>
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	<p>○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている</p>		●				<p>✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
							応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		●				<p>✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題点はすぐに担当看護師に報告を行い、解決策を見出している。 ・スタッフの知識不足へもタイムリーな対応を図っている。直近のミーティングに計画したり、早急な実地指導など行っている。 					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		●				<p>✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します</p> <p>✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題点は、口頭か全体メールにて報告があり、相互協力の基利用者様の健康に目を向けている。手順書や動画なども活用し、全職員が情報把握できる仕組みがある。 					
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説		●				<p>✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	明し、利用者等の理解を得ている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・思うように説明できない場合があるが、状況に応じ実施し、理解を得ている。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		●				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ご利用者の理解度にもよるが、自己決定を尊重しながら実施し理解を得ている。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		●				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・根気よく説明行っている。 ・使用したことのない医療機器等もあり、ケア方法も知識不足により利用者に応じた対応ができていないことがあった。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		●				✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・常にご家族様の要望や意向は全スタッフに					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		周知し、共有行っている。					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・各専門職と情報共有に努めリスクを想定し対応行っている。状況に応じ、病状説明、カンファレンスなども実施している。					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・医師の説明や状態の経過などタイミングを見計らい記録にしているが、介護記録としては不十分な部分がある。 ・家族の気持ちは共有し、受容している。					
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ソーシャルワーカー、ケアマネを中心に実施している。事前の情報提供書も活用している。 ・退院時共同指導への参加により情報収集と導入への説明行っている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができる	●				緊急時対応方針が明確で、全職員が対応できるシステム構築されているのでよくできている	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	への情報提供や提案が行われている	対象者の登録に至っている。 ・運営推進会議からの包括的サポートへの内容把握が不十分である。(議事内容の周知不足か) 長寿あんしんネットワークへの紹介などをいただいた。					の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている		●				✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・誰にでも閲覧できるようにしているが、見るスタッフが少ない					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	●				よくできている	✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的と
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・こども110 ・地域清掃活動(月1回) ・体験学習受入れ(今年度実績なし)					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい会食参加 ・セブンイレブン購買車両(地域利用) 					した活動等は除きます
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、 積極的に受け入れている				●	ニーズ状況に応じて1号研修 受講検討を図ってもらえるとあ りがたい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くでき ていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します
37	○ 「看取り支援」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、 積極的に受け入れている		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くでき ていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が 介護保険事業計画等で掲げ ている、地域包括ケアシステ ムの構築方針や計画の内容 等について理解している		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その 充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあ たっては、その中で各々が果たす べき役割を、明確に理解すること が必要であるといえます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
							<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
							案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		●				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
		<p><u>【具体的な状況・取組内容】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者様に於いては介護、ケア実施できている。ご家族様への介護指導、相談にも積極的に応じている。 ・地域への取り組みの充実が次年度への課題 					

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ② 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・担当者により達成状況を把握している		✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ② 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・満足度は高い(継続利用あり)		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>① ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>5. 看取りの希望者はいない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <p>実施できている</p>		<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>